



があーっぱ祭り常連の
アマチュアカメラマン
浦津 達男 さん
(宇城市・60歳)

受け継がれる祭り

祭りの撮影は今年で6回目。御船の祭りは、山車、総踊り、花火と見どころも十分。町民も協力して、若い人も頑張って世代を受け継いでいる。今年は新たに「よさこい」や「恐竜ねぶた」がパレードに加わり、見応えがあった。カメラから、祭りの雰囲気と楽しさが伝わってくる。

INTERVIEW



よさこいでパレードに
初参加した肥後真狗舞
工藤 寛士 さん
(熊本市在住・20歳)

沿道の客と一体感

ひごまぐま 肥後真狗舞は県内の大学生チーム。祭りには小巻組から誘われて参加した。おてもやんなど民謡をアレンジした曲で踊った。御船の祭りは、地域の祭りだと感じた。沿道のお客さんのすぐ近くで踊れて、一緒に踊ってもらえて楽しかった。来年もよんでもらえたら、参加したい。



勇壮な山車

祭りの名物といえば山車。戦国時代の御船城主「甲斐宗運公」の一番山車、古代最強「恐竜」の二番山車は圧巻だ。力を込め、息を合わせ、約2時間練り歩く。流れる汗が重量感を物語る。



オリジナル

祭りに新たな風が吹いている。町商工会青年部の「まもレンジャー」もそのひとつ。子どもたちに絶大な人気を誇る。さらに今年は、「恐竜ねぶた」が登場。町民の個性が光る祭りだ。

苦渋の決断

「まもレンジャーショー」終了と同時に、滝のような雨がお祭り広場を襲った。御船橋下には多くの来場者がなだれ込み天候の回復を待ったが、午後3時に祭りの中止が決まった。



カッパ街道

古くからカッパのまちとして知られる御船。御船川の若宮淵や糸糸淵にはカッパ伝説が今に残る。年に一度の祭りでは、本町通りや城山通りといったカッパ街道を、山車を引き練り歩く。



躍動する力

歴史ある祭りに近年、若い力が加わっている。今年は、熊本を代表するよさこいチーム「小巻組」と「肥後真狗舞」がパレードに初参加。沿道の声援に躍動感ある踊りで応えていた。

8月14日、心躍る夏の一日がやってきた。「御船があーっぱ祭り」が、今年も幕を開ける。しかし、御船上空には雨雲が覆っていた。時折、激しく降る雨に見舞われながらも群衆は山車を引き、踊り、町内を練り歩いた。御船橋下河川敷のお祭り広場ではキッズダンス、まもレンジャーショーが決行されるも雨足は強さを増して、天候が回復することはなかった。午後3時、苦渋の決断の末、中止が発表された。ここでは、雨にも負けなかった300分間の祭りを、あますことなくお伝えしたい。



きつと 来年の夏も
この笑顔に巡り合う――